

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	➡

(注) 6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、スーパー販売が前年並みとなっていることなどから、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、生産用機械が海外メーカーで設備投資の動きがみられることから持ち直しつつあるほか、輸送機械が足下では一部自動車メーカーの生産・出荷が再開し、持ち直しているなど、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、有効求人倍率がおおむね横ばいとなっており、企業の人手不足感が引き続き高い状況にあるなど、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
個人消費	回復に向けたテンポが緩やかになっている	回復に向けたテンポが緩やかになっている	➡
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡

設備投資	6年度は増加見込み	6年度は増加見込み	➡
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は増益見込み	➡
企業の景況感	「下降」超幅が縮小	「下降」超幅が不变	➡
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	➡
公共事業	前年度を上回っている	前年度を上回っている	➡

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、海外景気の下振れや物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「回復に向けたテンポが緩やかになっている」

スーパー販売は節約志向がみられるものの、飲食料品等が堅調となっており、前年並みとなっている。百貨店販売は飲食料品等が低調となっており、前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は飲料等が低調となっており、前年を下回っている。ドラッグストア販売は飲食料品や日用品などが好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売はアウトドア用品等が低調となっており、前年を下回っている。家電大型専門店販売はエアコンや冷蔵庫などが低調となっており、前年を下回っている。乗用車販売は一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響が和らぎ、前年並みとなっている。旅行は国内旅行が緩やかに回復しつつあるほか、海外旅行にも動きがみられる。このように、個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- ポイント付与率の高い日などにまとめ買いする傾向が強まっているほか、より安い店舗への顧客流出もみられる。(スーパー)
- 全国的な米不足の報道により、陳列した米はすぐに売り切れる状況が続いた。(スーパー)
- 節約志向により生鮮食品など日常使いの商品は低調となっており、セールをしても反応が鈍い。(百貨店)
- より安い販売店で購入する顧客が多くなったとみられ、飲料の伸びが鈍化している。(コンビニエンスストア)
- 安く取りそろえている日用品の売れ行きが好調なほか、米の需要増加が売上げを押し上げている。(ドラッグストア)
- エアコンや冷蔵庫は、猛暑等により好調だった昨年の反動で低調となっている。(家電量販店)
- 生産・出荷停止となっていた車種の販売が再開され、販売台数は回復傾向にある。(自動車販売)
- 国内旅行のマインドは引き続き高く、旅行客は多少の値上がりを気にせず、旅行にお金を使う傾向が続いている。海外旅行は富裕層中心に徐々に回復している。(旅行代理店)
- 紅葉シーズンや年末年始の予約は順調となっており、今後も消費者の旅行意欲は高い状況を見込んでいる。(観光協会)
- 郊外型施設への来店は行楽を兼ねており、物販から飲食につながる良い流れができている。(専門店)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

電子部品・デバイスは海外の自動車向けが弱含んでいるものの、スマートフォン向けなどは持ち直しの動きがみられる。輸送機械は一部自動車メーカーの生産・出荷停止等の影響がみられるものの、足下では生産・出荷が再開し、持ち直している。生産用機械は海外の半導体メーカーにおいて設備投資の動きがみられることから、持ち直しつつある。このように、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

- 車載部品は、中国市場において日系メーカーが苦戦しているほか、欧州向けも低調となっていることから、受注が減少している。(電子部品・デバイス)
- 中国においてスマートフォン向けが堅調となっているほか、AI(人工知能)需要によりデータセンター向けが伸長していることから、半導体需要に改善の動きがみられる。(電子部品・デバイス)
- 一部自動車メーカーの生産・出荷の再開に伴い、受注は順調に推移している。8月に台風の影響はみられたものの、下期の生産は当初計画を上回ることが予想される。(輸送機械)
- 海外の半導体メーカーの需要回復に伴い、生産量は順調に推移している。(生産用機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっており、企業の人手不足感は引き続き高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 人手不足の中であっても、企業は新規求人より既存従業員の賃上げや福利厚生の充実による定着率の底上げを優先する傾向にある。(公的機関)
- 賃金や労働条件を改善しているが、人手不足が深刻化し売り手市場となっているため、工場作業員等は過酷な労働環境のイメージから敬遠されている。(輸送機械)
- 人材確保のため賃上げの必要性は感じているが、業績の見通しが立たず、内部留保を増やしてからでないと大幅な賃上げは難しい。(運輸)

- **設備投資** 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7~9月期
- 製造業では、情報通信機械等で減少見込みとなっているものの、輸送用機械、非鉄金属等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、専門・技術サービス等で減少見込みとなっているものの、小売、金融・保険等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 新製品の生産等に係る投資により、増加する見込みとなっている。(輸送用機械)
➤ 食品製造工場や新店舗の建設などにより、増加する見込みとなっている。(小売)

- **企業収益** 「6年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7~9月期
- 製造業では、食料品等で減益見込みとなっているものの、非鉄金属、化学等で黒字転化見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
 - 非製造業では、専門・技術サービス等で減益見込みとなっているものの、運輸・郵便、農林水産で黒字転化見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

- **企業の景況感** 「『下降』超幅が不变」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年7~9月期
- 現状(6年7~9月期)は、「下降」超幅が不变となっている。先行きは、6年10~12月期に「上昇」超に転じ、7年1~3月期に「下降」超に転じる見通しとなっている。

- **住宅建設** 「前年を下回っている」
- 新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、分譲いずれも前年を下回っている。

- 物価上昇や金利引上げの報道などにより、住宅購入に様子見や買い控えがみられる。(建設)

- **公共事業** 「前年度を上回っている」
- 前払金保証請負金額は、市町村、独立行政法人等などで前年度を上回っており、全体では前年度を上回っている。
- **消費者物価** 「前年を上回っている」
- **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
- **企業倒産** 「件数、負債総額とも前年を上回っている」

3. 各県の総括判断

	前回(6年7月判断)	今回(6年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は回復に向けたテンポが緩やかになっており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しており、生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は持ち直しの動きに一服感がみられる。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しており、生産活動は持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は持ち直しのテンポが緩やかになっており、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は横ばいの状況にある。
山形県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は持ち直しのテンポが緩やかになっており、生産活動は横ばいの状況にある。雇用情勢は、有効求人倍率は高水準を維持しているものの、足踏みの状況にある。
福島県	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	➡	個人消費は足踏みの状況にあり、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。